

## 草の根技術協力（協力支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	ウズベキスタン共和国
2. 案件名	DX 技術の導入・指導による小規模農家の生計向上とブルーベリー新規特産地の形成
3. 事業の背景と必要性	小規模農家は、深刻な塩害の影響により営農による生計維持は困難であり、収益性の高い作物の導入は喫緊の課題である。本事業を通じて DX 技術を活用したブルーベリー栽培技術を導入し、生計向上を支援する。市場分析に基づき、全国的な健康志向の高まりと国内生産の高収益性に着目し、ブルーベリーの新規特産地化を図り、持続可能な農業モデルの構築を目指す。
4. プロジェクト目標	DX 技術（3D 遠隔指導、生成 AI）の導入により、小規模農家が付加価値の高いブルーベリーを生産・販売するための技術を習得する。
5. 対象地域	タシケント州及び周辺地域
6. 受益者層（ターゲットグループ）	18-35 歳の小規模農家（デフカン）約 80 名。DX 技術の導入に抵抗感の低い若年層を中心に、技術習得意欲の高い者を対象とする。
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p>&lt;アウトプット&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>塩害を回避でき、低コストで高品質なブルーベリーのポット栽培技術が小規模農家に移転される。</li> <li>DX 技術を活用した遠隔栽培支援システムが導入され、効果的に運用される。</li> <li>ブルーベリーの試験販売が開始される。</li> </ol> <p>&lt;活動&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. カウンターパートを核としてブルーベリー栽培に興味を持つ小規模農家グループを形成する。</li> <li>1-2. 主要な管理作業ごとに専門家を派遣し、付加価値を高めるための剪定等の栽培技術を対面でハンズオン指導する。</li> <li>1-3. ブルーベリー苗木や農業資材（培養土など）の安定的な現地調達の手段を確立する。</li> <li>1-4. カウンターパートと共に栽培・収量計画を策定し、品質・生産管理体制の確立支援を行う。</li> <li>1-5. カウンターパートのエクステンションセンターでの小規模農家向け学習プログラムにブルーベリー栽培コースを組み込む。</li> <li>2-1. 専門家によるブルーベリーの育成状況の遠隔診断栽培支援システムを構築する。</li> <li>2-2. ブルーベリー栽培専門家による週 1 回の遠隔栽培指導・質疑応答を実施する。</li> <li>2-3. 遠隔栽培指導のログ（専門家と農家間の Q&amp;A 内容）をデータベース化する。</li> <li>2-4. 生成 AI（大規模言語モデル）を活用した栽培ノウハウ検索システムを構築する。</li> <li>2-5. システムを汎用 SNS に移設し、CP が運用管理できるように指導する。</li> <li>3-1. カウンターパート主導で市場調査（梱包、価格、品質、デザインなど）を行う。</li> <li>3-2. SNS を活用したブランディング、プロモーションを共同で推進する。</li> <li>3-3. 栽培したブルーベリーの試験販売、消費者への試食アンケートを実施し、改善計画に反映する。</li> </ol>
8. 実施期間	（西暦）2026 年 6 月～2029 年 6 月（3 年）
9. 事業費概算額	9,987 千円
10. 相手国側実施機関（カウンターパート）	タシケント州立農業大学
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	国立大学法人 電気通信大学
2. 主な活動内容	電気通信大学は、DX 技術を活用した教育研究活動において豊富な実績を有する。国内では、地域社会と連携した災害情報システムの構築や離島地域でのデジタルポータル運用による地域活性化を推進している。国際協力分野では、ASEAN 諸国との連携を通じた科学技術教育や研究支援を行い、特に小規模農家の支援や技術移転を目的としたプロジェクトを数多く実施してきた。